

令和3年度 教職員対象学校評価

- | | | | | |
|---|------|--|---------------------|------------------------|
| 1 | 教育目標 | 教育基本法及び学校教育法の主旨に則って高等普通教育を施し、併せて天理教の教義に基づく信条教育を行うことを目的とする。 | (1)信条教育を具体的な形で展開する | ①「祈り」のある教育を実践する |
| 2 | 校訓 | 神一条の精神 ひのきしんの態度 一手一つの和 | | ②「報恩感謝」を身につける教育を実践する |
| 3 | 教育方針 | | (2)与えられた徳分の一層の伸長を図る | ③「互いにたすけあい」ができる教育を実践する |
- 令和3年度

	重点目標	No	目標達成の方策	評価	令和3年度 取り組んできたことの成果と課題	具体的な方策（令和4年度学校評価における改善のための方策）
信条教育	祈りのある教育	1	厳肅な態度で参拝するよう指導の徹底を行うとともに、信条教育の意識を高める	A	朝の定刻参拝に替えて、十全の守護・八つのほこりの拝読を行う。昨年10/19より毎週火曜日本部神殿にて全校参拝させていただく。クラス単位で本部参拝に行く機会をつくることを促した。	クラス単位で本部参拝に行く機会を作ることを促す。
	報恩感謝を身につける	2	ひのきしんの活動に生徒と共に積極的に取り組む	A	生徒と共に毎日の生活の中で感謝できることを見つけていく。何事も報恩感謝の気持ちで取り組んだ。	生徒と共に毎日の生活の中で感謝できることを見つけていく。何事も報恩感謝の気持ちで取り組む。
	慎みと助け合いの精神を育てる	3	慎みとたすけあいの精神を意識して日常生活を送るよう指導する	A	あらゆる場で信仰の喜びを伝えた。	あらゆる場で信仰の喜びを伝えていく。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	4	頭髮、服装など身なりを整えるように指導する	A	学校内や、登下校時、天理駅等で継続的に指導した。	学校内や、登下校時、天理本通り・天理駅等で継続して指導する。
		5	挨拶の励行、時間厳守をするように指導する	A	教員から率先して声を掛け時間厳守の大切さを論じた。	挨拶ができない生徒がやや増えてきているようなので、今まで以上に教員から声をかけていく。
		6	校舎内外の美化と公共物を大切にできるように指導する	A	HRやクラブ等でひのきしん・清掃の大切さを教え、清掃時には教員が必ず一緒に行った。	清掃時には教員が必ず一緒に行き、ひのきしん・清掃の大切さを教える。また、クラブ活動時やホームルーム等も同様とする。
		7	生徒に規範意識の向上を日常的に働きかけをする	A	校内外でのマナー違反の事例を伝え、人々に迷惑をかけないように話をした。	社会のマナー違反の事例や自転車の接触事故や苦情等について話し、他人に迷惑をかけることや、事故に遭わないことをこまめに指導する。
	指導の協力、連携を図る	8	教職員の意思統一と共通理解、共通行動をするように努力する	A	年間を通じて職員会議等で校則の確認をし、生徒についての情報共有を行った。	生徒についての情報を共有するとともに、職員会議や学年会等で校則に関する共通認識を持つ。
		9	保護者等へ学校の指導方針を理解していただくよう努力する	A	メール・電話連絡・家庭訪問などを行い、学校の指導方針を理解してもらい、保護者との連絡を密に取った。	学校の指導方針を理解してもらうため、電話連絡・メール・家庭訪問を行い、保護者との連絡を密にする。
いじめ問題への対応	10	いじめ問題の重大性をすべての教職員が認識し、未然防止、報告・連絡・相談を確実にし、組織的に取り組む	A	多様性のある環境であることを理解させ、学校全体が「いじめは許さない」という姿勢を示し、自分がしなだけでなく、指摘や注意する雰囲気を作っていた。	引き続き、多様性のある環境であることを理解させ、学校全体が「いじめは許さない」という姿勢を示し、自分がしなだけでなく、指摘や注意する雰囲気を作っていた。	
	11	いじめの形態や特質、原因、背景、具体的な指導上の留意点などについて、教職員間の共通理解を図る	A	些細なことでも学年会・関係者会議・職員会議等で話し合い、生徒に関する者が情報を共有しながら迅速な対応を心掛けた。	普段から学年会・関係者会議・職員会議等で話し合い、生徒に関係する者が連絡を密に取り合い、迅速な対応を心がける。	
進路指導	生徒の希望進路の実現	12	HR、進路ガイダンス等において進路情報を提供し、生徒の意識付けを図る	A	有効な講演会やガイダンスは継続して行った。情報機器を用いた情報収集の方法を指導する機会を設けた。国公立大学志望の生徒には、国公立講習を利用して情報提供を行った。新入試や共通テストに対して理解が深まるよう教員研修を実施した。 前年度は夢ナビライブなどのイベントがほぼなくなったが、今年度、講演会は何度か実現できた。また、オープンキャンパス等にも参加しづらい状況が続き、生徒が情報収集することが難しかった。この状況は今後も続くと思われるので、増加しつつある「オンラインでの形式」に慣れる必要があった。大学入学共通テストについてもさらに研究する必要がある。生徒と共に教員も自己研鑽を怠らないよう、定期的に勉強会などを開催した。	有効な講演会やガイダンスを継続して行う。情報機器を用いた情報収集の方法を指導する機会を設ける。国公立大学志望の生徒には、入試準備講習、国公立講習を利用して情報提供やガイダンス・講演を行う。新入試や共通テストに対して理解が深まるよう教員研修を実施する。 今年度も進路関係のイベントは中止またはオンライン実施となった。卒業生による進路講演会も初のオンライン実施となったが、遠方の大学に在籍している卒業生にも参加してもらったことができたので、好評だった。しかしながら、生徒個人ではオンラインでの参加はまだハードルが高く、対面と比較すると物足りないのも事実である。オープンキャンパス等にも参加しづらい状況が続き、生徒が情報収集することが難しかった。この状況は今後も続くと思われるので、生徒が進路希望に向けて自らアクションを起こすよう促していきたい。2年目となった大学入学共通テストについてもさらに研究する必要がある。教員で情報共有を促していきたい。
	基礎学力の向上	13	生徒が予習、復習など毎日の家庭学習をするように指導を行う	B	継続して類を超えた学習指導に関する教員間の情報交換、主体的な学習への取り組みを促すための教科指導における工夫を行った。スケジュール手帳の活用について具体的な取り組みを検討し、教員間での情報共有を進めた。また、小テストを実施した。 小規模ながら生徒間の学力差が年々拡大しているため、上位層をさらに伸ばし、下位層を引き上げるために個別指導が必要だと考えた。特に下位層の生徒は、母校の影響が残っており、学習習慣が定まっていない生徒も目立った。教員でそういった生徒の情報を共有し、手厚い指導を心掛けた。また、コロナ禍で急速に普及した「映像学習」の正しい活用方法なども指導した。	新入生から導入されるchromebookを活用した基礎学力の定着をはかる学習方法を模索する。生徒個々の学習状況や小テストの結果をスケジュール手帳に記録し、振り返りをする事でPDCAサイクルの確立を図る。 昨年度に引き続き、上位層をさらに伸ばし、下位層を引き上げるために、可能な範囲で個別指導の必要があると考える。特に下位層の生徒は、学習習慣が定まっていない生徒が目立つ。教員でそういった生徒の情報を共有し、手厚い指導を心掛ける。生徒の多くが利用している「映像授業」のサービスを利用すれば、難関大学の対策をしたり、中学レベルの内容まで選んで復習したりすることもできるので、こういったツールをさらに活用することも考えている。
	授業内容、技術の向上	14	生徒の学力を最大限に高める授業内容、進度、教え方の工夫をする	A	課外講習の実施内容を各教科や講習担当者で体系的にし、年間計画の充実を図った。2年生の課外講習には国公立講習と指名者講習しかないので、私大受験向けの講習を検討した。教科内での情報共有や研究会等への参加を積極的に行った。 例年通り、2類進路指導部会において学年主任から各学年の模試成績や学習の様子などを報告し、情報を共有するとともに改善すべき点を模索していった。また、ICTを効果的に利用するための研修も実施した。	ICTを利用した授業方法の研究会への参加を積極的に行い各教科で共有する。国公立講習と指名者講習があり、部活動もある中で、年間を通して、私大向けの講習の成立が可能かどうかを再度検討する。 例年通り、2類進路指導部会において学年主任から各学年の模試成績や学習の様子などを報告し、情報を共有するとともに改善すべき点を模索していく。また、新入生からChromebookを持たせることが決まっているので、それをどのように活用していくか検討を重ねる。
	生徒の意欲、関心の向上	15	生徒の疑問や質問を真摯に受け止め、授業にフィードバックするよう努力する	A	生徒が疑問や質問を投げかけやすい雰囲気作りを配った。大学入試改革等でも変更となった点を学年会や各教科に下ろし、学校全体で生徒に指導できる体制をより充実させた。 学習意欲が旺盛で、自ら学びを進めている生徒と、真逆の生徒と両方いる状況である。しかしながら、目標がなく、学習意欲が湧いてこない生徒が増えてきているため、学年毎に学問研究につながる講義動画など、有効と思われるツールを積極的に利用した。また生徒が教員に質問できるような雰囲気を作る努力をした。昨年度に続き、校外で実施される模試等を積極的に受験させ、自分の立ち位置を自覚させることで奮起させた。	生徒が疑問や質問を投げかけやすい雰囲気作りを配る。令和3年度から配付している進路通信を活用し、月に1回は進路・学習について意識づけをできるようにする。ガイダンス・講演等を利用して、生徒たちが将来直面するであろう社会問題を提示することで、進路について考えるきっかけを与える。 学習意欲が旺盛で、自ら学びを進めている生徒と、真逆の生徒と両方いる状況である。しかしながら、目標がなく、学習意欲が湧いてこない生徒が増えてきているため、学年毎に学問研究につながる講義動画など、有効と思われるツールを積極的に利用し、目標に向かって進むことができるよう、促していきたい。また常時、生徒が教員に質問できるような雰囲気を作る努力が必要である。そして、校内外で実施される模試等を積極的に受験させ、自分の立ち位置を自覚させることで奮起させたいと考えている。
人権教育	人権教育、研修の充実	16	人権HRの系統だった取り組みをする	A	確かな人権意識を持った生徒育成のために、3年間を見据えて、実情や世情を見つめながら学ぶ計画を立てていった。	日常の中で確かな人権意識をもった生徒育成のために3年間を見据え、各学年・各類の実情に合わせて、社会問題等も取り入れたタイムリーな人権教育のあり方を工夫していく。
		17	講師を招いての研修を受講し、人権教育に関して研鑽を積む	A	現状に合った有意義な研修の場をもつために、教職員の要望、研修内容や依頼講師に関する情報を収集しながら検討していった。また、教職員の校外研修についても情報を伝え積極的に参加する雰囲気を作っていた。	学校・生徒の実情や世情を踏まえ、有意義な研修となるために、教職員からの要望も聴きながら検討していく。また、学校外の研修に参加しやすい雰囲気を作っていくために、情報提供・情報交換をこまめにしている。
特別活動等	特別活動の充実を図る	18	生徒会活動、HR活動の活性化を行う	A	感染拡大防止対策に十分に留意しながら、クラスやクラブ単位での学園祭への参加を促し、また学年単位でのホームルーム活動など創意工夫を凝らした特別活動を行い、学校の活性化を図った。	学園祭への各クラス・クラブ単位での参加や、文科系クラブの活動報告展示をさらに充実させる。
	部活動の充実を図る	19	部活動を通して心身の成長を図るとともに、顕著な成績を修められるように努力する	A	新型コロナウイルス感染防止対策に十分に留意した。怪我をしないように無理のない活動計画を立て、効率の良い練習方法を模索し、成績を向上させるように努めた。	各分野の頂点を目指し、技術面だけではなく、精神的にも成長するよう取り組む。
研修	教員の指導力の向上	20	研究授業を実施し、教員の授業技術を向上させる	B	当該教科だけでなく他教科の研究授業にも積極的に参加し、授業技術の向上に役立てるように努めた。	定められた研究授業のみならず、教科ごとの自主的な研究授業も行い、授業技術の向上に役立てる。
		21	計画的な研修を行い、教員の継続的な資質向上を図る	A	各部会や学年で研修に関する年間計画を立て、テーマに沿った適切な講師派遣や目標への実践に努めた。	各部、各委員会、学年で研修テーマを設定し、綿密な計画のもと、議論を重ねる。
学校運営	広報活動の推進	22	HP、新聞、学校説明会等で広報活動を積極的に進行	A	ホームページの更新、学校新聞の発行等により学校に関する情報を迅速かつ正確に伝えた。また、学校案内を発行し、広範囲に配布して広報活動に役立てた。	ホームページの更新、新聞の発行等により学校に関する情報を迅速かつ正確に伝える。
	校務分掌の組織的な運営	23	校務が円滑に推進できるように、適切な役割分担、組織的な運営を行う	B	校務分掌の適切な割り振りや、各部署の責任者を中心として組織だった問題提起と活動をした。	それぞれの教職員が持つ特性がより生かせるような配置を行い、円滑な運営を心掛ける。
	安全管理教育の推進	24	外来者の対応(受付等)は適切に行う	A	外来者の事務所窓口での受付と、外来者の訪問意図を各職員室でも告げてもらうようにした。	来校者については事務室窓口で対応し、来校者の札を装着して校内に入り、訪問意図を各職員室でも告げてもらう。
		25	情報機器の安全教育、登下校時の安全教育を行う	B	進路指導上で必要となった携帯電話の正しい使用方法を引き続き指導した。また、SNS上での不用意な発信を厳に慎むように指導した。	進路指導上で携帯電話が必要となり、所持を認めているが、SNS上での不用意な発言がいじめに繋がらないように、正しい使用方法を引き続き指導する。
26	事故、事件、災害などの防災や危機対応に取り組む	A	適切な避難経路を常に意識させておくとともに、安全教育と避難訓練を実施した。	地震や火災を想定した避難訓練を実施し、教職員や生徒の危機管理意識をさらに高めるように努める。		